

小田原市芸術文化創造センター市民説明会概要

日 時：平成28年6月5日（日曜日）10：00～12：00

場 所：小田原市役所 大会議室（7階）

参加者：72名

1 開会（進行：文化部副部長）

- ・本日の流れ説明

2 あいさつ

【市長】

本日は、お忙しい中「芸術文化創造センター市民説明会」に多くの市民の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。

お集りの皆様には、様々な面において、これまで本市の文化の発展にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、芸術文化創造センター整備に関して、私から皆様に直接説明するのは、昨年11月の市民説明会以来であり、この間、芸術文化創造センターの整備はどうなっているのかと、皆様にご心配をおかけし恐縮している。

そこで、本日の説明会は、いわば中間報告的に現在の状況と考えを説明するものであるので、開催趣旨をお汲み取りいただくとともに、最終的な結論については、本年秋を目途に改めて皆様にお伝えする機会を設けたいと考えているのでご了承いただきたい。

本日の説明会で皆様に、まず初めに申し上げたいのは、今後も芸術文化創造センターの整備は推進するということである。

一方で、将来を見通すことが極めて難しい社会情勢の中、大型事業を推進する上では、様々な要素を考慮しながら、市政全体における事業推進と財政運営の最適化という観点から判断する必要があり、芸術文化創造センターにおいても、この点を十分に考慮しなければならない。

そこで、私は、これまで芸術文化創造センターの早期整備を望む多くのご意見をお聞きし、また、本市を取り巻く状況を総合的に判断した結果、今後の芸術文化創造センター整備の考え方として、ここで拙速に事業提案の手法によって整備することは見合わせることにするものの、「芸術文化創造センターは本市の芸術文化創造の拠点となることから、平成31年度までの建設工事着手を念頭に置き、引き続き整備を推進する。

なお、建設費の高止まり等、この事業を取り巻く厳しい現状に鑑み、建設に充当する一般財源の額、整備内容、整備手法については再検討し、今年秋までに決定する。

今後の検討には、実施設計に至るこれまでの作業の成果や、事業提案に向けた意見募集

を通じて得られた知見などをできる限り生かしつつ、市として望ましい整備のあり方を
目指す、というスタンスで臨む。」こととした。

この考えに至った理由については、後ほど、改めて説明するが、まずは、冒頭のあい
さつの中ではあるが、整備についての考えを述べさせていただいた。

入札不調から、本日まで、市民の皆様には、芸術文化創造センターの整備について、
何かとご心配をおかけし大変申し訳なく思っている。

本日は、来年度からスタートする本市の総合計画(後期基本計画)の策定を踏まえて、
これから、芸術文化創造センターの建設に充当する一般財源の額、整備内容、整備手法
について再検討する必要があるということで、説明会を開催させていただいたことをご
理解いただきますとともに、これからも、皆様から忌憚りの無いご意見をいただき、私は
これをしっかりと受け止めて、整備に取り組んでまいる所存であり、先ほど申し上げた
とおり、今年秋には、整備内容、整備手法を決定してまいるので、よろしく願いした
い。

最後に、改めて、皆様におかれましては、芸術文化創造センター整備に向けて、より
一層のご理解とご協力をよろしく願いして、冒頭のあいさつとさせていただく。

3 説明

【文化部長：資料1～4まで】

それでは、私から、お手元の資料の順番に説明させていただきます。

本日、初めて参加される方もおられることかと存じますので、これまでの経緯につい
て簡単に説明いたします。これまで熱心にご参加いただきました方には、ご承知の内容
かと思いますが、少しお付き合いをお願いいたします。

まず、資料番号1「入札からの主な経緯について」をご覧ください。

「1 建設工事の入札結果について」ですが、「(1)開札執行日」のとおり、平成2
7年7月23日(木)に建設工事入札の開札を行いました。

「(2)予定価格」ですが、予定価格を税込みで7,297,486,560円としておりました。

これに対して、「(3)入札状況」ですが、鉄建建設株の1社のみから入札があり、第
1回目が予定価格を上回っていたため、同日に第2回目の入札を行ったところ、税込み
で9,388,440,000円の応札がございました。

「(4)入札結果」のとおり、入札金額が予定価格を超過したため、入札は不調とな
りました。

この入札結果を受けて、市では、増額して直ちに再入札はしないこととしたうえで、
「2 今後の対応の4つの選択肢」を示しました。

この4つの選択肢の具体的内容ですが、「(1)延期」は、市民会館を改修し、整備時
期を遅らせるものでございます。

「(2) 設計見直し」は、仕様を大幅に見直し、現行予算内に収めるよう再設計を行うものでございます。

「(3) 分割工事」は、大ホール等を先行して整備し、小ホールは先送りするものでございます。

「(4) 事業提案」は、公募型プロポーザルを実施して、民間企業から広く事業提案を募集し、現行予算内で整備をするものでございます。

そして、4つの選択肢について、市民の皆様のご意見をお伺いするため、「3 意見交換会の開催概要」のとおり、第1回意見交換会を9月19日(土)午後2時から6時まで、市役所大会議室で開催いたしました。当日は109名もの市民の方々にご参加いただきました。

次に、「4 設計者の考え」のとおり、意見交換会におきまして、設計者の新居千秋氏から、今後の対応についての考えが示されました。

新居氏の考える今後の方針としては、(1)のとおり、分割工事が良いというもので、その理由としては、(2)の「ア」から「カ」に示してありますとおり、小ホールを除けば現行予算内で落札の可能性が高いこと、座席の一部使用や照明などを工夫すれば、大ホールを小ホール的に快適に使えること、開館の遅れを最短にできること、小ホールが無い分、ランニングコストが軽減できること、小ホール予定地をイベント広場として利用できること、小ホールの設計図があるので、後年いつでも整備が出来ること等が説明されました。

次に、「5 サウンディング型市場調査の実施結果概要」ですが、この調査は、4つの選択肢から、方針を検討するに当たり、民間事業者の事業手法等に関する柔軟かつ優れたアイデアを収集することを目的に、民間事業者との対話を通じて、整備の可能性を調査したものです。

その結果を記載しておりますが、(1)のとおり、A社(サービス業)からは、「設計施工・運営管理一括やPFI方式での事業提案が可能である。」との提案をいただきました。

(2)のとおり、B社(建設業)からは、「事業提案で、市が予算の範囲内で整備出来る諸施設を建設して、整備出来なかった施設は収益施設と合わせて民間が建設する。」との提案をいただきました。

(3)のとおり、C社(建設業)からは、「小ホールを除いた分割工事が現実的である。」との提案をいただきました。

(4)のとおり、D社(建設業)からは、「小ホールを除いた分割工事も有力ではあるが、条件によっては、設計施工を含めた事業提案も考えられる。」との提案をいただきました。

この結果や意見交換会でいただきました皆様のご意見等を踏まえ、「早期の整備を望む市民の意見」、「整備の確実性」、「財政的な負担」、「性能や質などの整備内容に対する

市民要望の最大限の実現化」の4点を重視して、「6 整備についての今後の方針」のとおり、「実施設計に捉われない自由な発想による事業提案を軸に、整備の可能性を探っていく。」ことといたしました。

この方針については、「7 市民説明会の開催概要」のとおり、市民説明会を11月28日(土)午後1時30分から午後4時30分まで、けやきホールで開催いたしました。当日は103名もの市民の方々にご参加いただきました。

次に、資料番号2「事業提案」に向けた意見募集結果の概要をご覧ください。

1ページの「3.結果」の「(1)参加事業者」のとおり、3業者から申し込みがございました。

事業者別内訳は、建設業3社で、その内、1社は途中辞退いたしました。

次に、2ページの「(2)結果概要」のとおり、デザインビルドによる諸施設や設備の整備内容等について、次のとおり意見がございました。

1社目は、「ア A社(建設業)」にあるとおり、「大ホールと小ホールをはじめ利用目的に沿った施設計画で、想定事業費内での整備が可能である。具体的には、大スタジオを取りやめ、小ホールは市民利用を想定した必要不可欠の機能やスペックに絞り、その他の諸室は部屋数を限定し利用目的に沿った機能での整備とすることを想定している。」

もう1社は、「イ B社(建設業)」にあるとおり、「ホール機能を優先させて、大スタジオと小ホールのあり方を見直し、市民利用主体の他の諸室では、これに見合ったグレードとすることで、想定事業費内で、基本計画のかなりの部分を整備する。」というものでございました。

3ページ以降の「(3)意見聴取の内容」につきましては、A社、B社、それぞれ、デザインビルドの整備手法について、外観デザイン、ホールとしての質、諸施設や設備の整備が可能な内容、市民意見の反映、その他まで、詳細が記載されておりますので、ご覧ください。

次に、資料番号3「整備に対する意見」をご覧ください。

この資料は、先ほどご説明いたしました資料番号2「事業提案」に向けた意見募集結果の概要」を去る3月30日に公表いたしました。それ以降、市民ワーキング、文化団体、市民団体、商工会議所、商店会連合会、市議会、整備推進アドバイザー、整備推進委員会からいただきました、整備に対する意見をまとめたものでございます。

「1 整備時期」については、「(1)延期」に記載のとおり、東京オリンピック・パラリンピックの開催を睨んで、延期を視野に入れたご意見をいたしました。

一方、「(2)早期整備」に記載のとおり、早期整備を望む多くのご意見をいただきました。

(3)のその他の意見では、整備のあり方等についてご意見をいただきました。

次に、「2 整備内容や整備手法等について」は、「(1)整備内容」に記載のとおり、

主にホールの客席数や機能に関するたくさんのご意見をいただきました。

そして、「(2) 整備手法」に記載のとおり、分割工事とする意見とデザインビルドで整備するという意見の両方が寄せられるとともに、その他の手法の意見もございました。

「(3) その他」の意見では、名称に関するものがございました。

最後に、「3 その他」については、「(1) 財源と交付金」に記載のとおり、交付金の確保に関する事、財源確保策に関する事のご意見をいただきました。

「(2) その他」の意見としては、整備に関連する様々なご意見が寄せられました。

これらのご意見につきましては、本日ご参加いただきました皆様はもちろん、多くの関係者の皆様から忌憚りの無いご意見を賜りまして、改めてお礼申し上げます。

限られた時間でありますので、皆様からいただきましたご意見を、ここで全てに渡り詳細までご披露することは叶いませんが、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

次に、資料番号4「類似施設との建設工事費の比較について」をご覧ください。

資料4は、近年落札したホールの建設工事費と本市の芸術文化創造センターの想定される建設費を比較するために、これらを一覧にしたものでございます。

東日本大震災、また、東京オリンピック・パラリンピックの招致決定後には、平米単価をご覧くださいと、建設費は高止まっている状況でございます。

そして、下段のとおり、本市の芸術文化創造センターは、昨年5月の実施設計完成時には、建設費約73億円、延床面積9,706㎡であり、平米単価は約75万円でございます。

この実施設計で臨んだ昨年7月の入札の結果は、入札額が約94億円で、平米単価は約97万円と、かなりの金額となりました。

入札不調後に設計者の新居千秋氏から提案のあった小ホールの整備を先送りにする分割工事では、建設費約69億円、延床面積8,147㎡の平米単価は約85万円となります。

また、先ほど、資料1「「事業提案」に向けた意見募集 結果の概要」から、デザインビルドで整備を実施すると仮定して要求水準を作成した場合には、案として、大スタジアムを取りやめて、約73億円の建設費で、延床面積8,750㎡程度が見込まれ、平米単価は、約83万円となります。

以上を持ちまして、私からの資料番号1から4までについての説明を終わります。

【市長：資料5説明】

私からは、資料番号5「芸術文化創造センター整備についての考え」を説明させていただきます。

ただ今、文化部長から、入札からの主な経緯、「事業提案」に向けた意見募集の結果、整備に対する意見、類似施設との建設費の比較について説明をさせていただいた。

部長から説明があったとおり、市民ワーキングの皆様をはじめ、文化団体、市民団体、商業関係者、市議会議員、また、整備推進アドバイザーや整備推進委員会の専門家からのご意見もいただいた。

皆様から貴重な意見をいただいたことに、改めてお礼申し上げます。

その上で、整備を取り巻く本市の状況も踏まえて、本日、整備についての考えを皆様にご説明させていただく。

資料5は、整備についてのご意見や財政などの与条件を踏まえたうえで、考えをまとめたものである。

まずは、与条件であるが、「1 整備を取り巻く現状」では、「(1) 建設費の高止まり」のとおり、建設費が高止まっており、インフレスライド条項を適用すると、建設費の総額は、かなり増加することとなる。

そして、「(2) 整備内容」であるが、現時点で整備すると、基本計画の全てを実現することはできず、また、整備内容に対する建設費が割高になることから、基本計画を精査する必要がある。

また、「(3) 国からの交付金」については、これから交付金がどのくらい交付されるのかは、流動的である。

さらに、今年度、市総合計画(後期基本計画)を策定するので、「(4) 市総合計画(後期基本計画)の策定」のとおり、入札不調により事業が延期となり、現時点で整備に着手すると、他の大規模事業と整備時期が重なるため、芸術文化創造センター整備の時期や建設に充当する一般財源の額を後期基本計画策定作業の中で見極める必要がある。

これらを踏まえて、これからの整備についての考えをまとめると、「2 整備についての考え」のとおりとなる。

芸術文化創造センターは本市の芸術文化創造の拠点となることから、平成31年度までの建設工事着手を念頭に置き、引き続き整備を推進する。

なお、建設費の高止まり等、この事業を取り巻く厳しい現状に鑑み、建設に充当する一般財源の額、整備内容、整備手法については再検討し、今秋までに決定する。

今後の検討には、実施設計に至るこれまでの作業の成果や、事業提案に向けた意見募集を通じて得られた知見などをできる限り生かしつつ、市として望ましい整備のあり方を目指す、というスタンスで臨む。

以上が、市の考えであり、これから皆様には、整備に向けて引き続き、ご協力をいただきたいと考えている。

そして、「3 市民会館」については、当面は、必要最低限の維持・修繕を行い、予期せぬ不具合が生じた場合は、その対応をどうするのか、改めて検討する。

このように、本日は、整備についての考えを説明させていただいたが、来年度からスタートする本市の総合計画(後期基本計画)の策定作業の中で、芸術文化創造センターの建設に充当する一般財源の額を設定していき、これと並行する形で、整備内容、整備

手法についても固めていきたいと考えているので、これらを秋頃には確定し、改めてお示ししてまいりたい。

いずれにしても、震災復興やオリンピック需要などによる建設費の高騰といった外的要因があったにせよ、結果として多くの皆様の思いが詰まった基本計画をそのまま整備に生かすことができなかつたこと、整備内容の再検討が必要となったことについて、ご批判があることは十分承知している。

私は、こうした声を真摯に受け止め、今しばらく時間はかかるが、確実に建設工事に着手することによって市長としての責任を果たしてまいりたいと考えているので、今後ともよろしくお願いしたい。

4 質疑応答

【市民1】

公共単価で積算すれば、新居氏が推奨している小ホール分割では、設計金額が69億円より安くなるはず。だから予定価格が69億円なら落札し建設できるという話はおかしい。

【部長】

今回の実施設計では、73億円では小ホールを含めた整備は出来ない。小ホール分割案では69億で落札する可能性はある。

【副部長】

積算が見積活用方式ならば落札の可能性はある、というのが部長からの回答である。公共単価で計算すれば予定価格が安くなるというのはおっしゃるとおりである。

【市民2】

3年間の延期は非常に有効である。駅前の再開発事業は平成元年からお金を使って事業を行ってきて、ここでまた動きがあるようである。小田原市の経済状況から言ってまた同じ失敗をする事が心配であり、難しいと言える。平成31年度着工ということであれば、是非駅前に造ってほしい。設計図を描いてみたが、若干の設計変更で建設が可能である。小田原市の大規模事業の救済策であると考え。市民意見としてこれまでずっと言い続けてきたことである。

【市長】

お城通り再開発事業の件について、これまでご尽力いただいたことには感謝する。市長就任の際のマニフェストでは駅前にホールを作ることをお約束したが、現在の予定地

は三の丸であり、齟齬があることについては申し訳なく思っている。しかし、これまでの議論の中から、小田原にとっての一番重要な場所と言っても良い芸術文化創造の拠点を三の丸地区に造ることによってこそ、その力を発揮し文化芸術と調和した営み出来るものと捉えている。

駅前再開発については、今年度事業者を決定する。事業の内容、公共施設のあり方等を含めて整備を推進するスキームが見えてきた。駐車場施設を整備して、後半の交流施設ゾーンに着手する段となっている。

申し出の合った主旨については、事業を進めるプロセスの中で小田原の力が生かせるようにしっかりと受け止めさせていただく。

【市民3】

3年前に小田原に越してきた。商工会議所などが今のセンター予定地にホールを造るべきではないと主張しているようだが、今になってまだそのような主張をするのは理解できない。予定地は更地になりいつでも建設が出来るようになっている。お城の前という立地にふさわしいものを造るかを考えればよい。今回の説明会は、予定地に造ることは決まった上での話だと思っていた。駅前は駅前で検討をしてきただろうからそのまま進めたほうが良い。そろそろ小田原評定をやめてはどうか。

【市民4】

平成31年度に着手するという話があったが、昨年度は事業予算を確保した上で入札に望んでいたはずであり、落札していれば73億円で造るつもりだったのだから、今さら財源問題を持ち出すのはおかしい。いつでも着工できるのではないか。

また、オリンピック需要などが落ち着くのが平成31年度よりという説明であったが、保障の無い見込みだけの話である。いずれにしろ今すぐ造るべき。

老朽化した施設の更新時期を迎えているのは一般的な話であり、斎場などの大規模事業が控えている事情はよく分かったが、斎場を造るからホールが作れないという話ではないだろう。計画立ててやれば、両方出来るのではないか。

交付金も減るという話であり、現に減っているということもあるが、市の財政負担を軽減するためにも、早めに着手して交付金を獲得する必要もあるのではないか。

先延ばしされたが消費税の増税も確度が高く予定されている。先延ばしすればこういったマイナス要因が多々出てくる。その度に伸ばすのでは、建設は出来ない。

【市長】

遅くても平成31年度までに着手ということであり、諸条件の見極めを済ませて、実現可能性の確認が取れた段階で、実現に向けた作業に移行する。

建設状況を巡る今後の予測については、公、民間と様々な推計がなされているので、

何を持って確実なところということとは言えないが、諸情勢の中で、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた需要予測については、平成31年度には落ち着くとの推計は実際あるので、この時期に高止まり感から一服の状況にはあると考える。

大型事業については、ここ1年程で具体化して来た案件もあり、整備の検討を進める中でもお金の問題を含めて大きな状況変化があった。入札の不調により遅れた1～2年間で考えても、斎場、焼却場、お城通り地区再開発などの整備のピークと重なるものであり、健全な財政を組むという観点からは、これらの事業を看過してまでとにかく早く造るということにはならない。冷静に見極めて財政を組む必要があることはご理解いただきたい。いいホールを造るために、これからますます厳しくなる財政状況の中で、適正な規模、必要な機能のものをよりリーズナブルに造ることは、税金を預かり、執行するものの責務であると考え。ホールに関しては、推進を後押しするようなものや慎重論まで様々な意見が出ているが、今後は様々な意見の中庸をとると言う事ではなく、必要な判断をこの数ヶ月の間ですべきであると考えている。

【副市長】

交付金について、芸術文化創造センターは、総事業費73億円のうち、23億円を交付金、借金として40億円、一般財源10億円を見込んでいた。交付金は、そのときの政権の考え方によるところが大きく、その考え方によってどこにどのくらいの費用を投入するのかが変わってくる。現在、国は地方創生に重点的に補助金を配分しており、仮に今センターの整備を進めても、23億円の交付金が獲得できる可能性は低いことを、資料の中では流動的であると示している。いずれにしても、その時々で一番交付金を獲得しやすい部分に焦点を当てて確保をしたい。

【市民5】

造ることに賛成である。設計者の新居氏のことを調べてみた。赤レンガ倉庫を設計した際には貴重な文化資産の保存とみなとみらい地区の活性化とあり、これをそのまま小田原に当てはめると、お堀端、お城、海産物等の文化並びに、地域の活性化に伴う小田原並びに西湘地区の活性化となるので、ぴったり来るので良いのではないかと考える。赤レンガ倉庫ではオクトーバーフェスやイースターエッグ、全国餃子祭りなどで賑わっている。箱根に観光客を取られている小田原を何とか活性化したい気持ちとつながるのではないかと。

秋田県由利本荘市のホール「カダレ」は、演奏等をしている写真がインターネットに掲載されているが、横浜のみなとみらいホールに似ていて音響効果もかなり良いものなのではないか。

新居氏は小ホール分割案で、小ホール予定箇所を広場にして集客しようとしているが、赤レンガ倉庫の例で言うと、広場自体が集客力のある施設になりうることを示唆してい

るのではないか。デザインビルドの必要性はあるのか。小ホールが必要なのか検討する必要がある。また、大ホールは1,100席だが、地方のホールが1,300~1,500席であることを考えると多少規模が小さいが、これもこの席数でよいのか検討を要する。

財政的な面で言えば、先ほどの説明で内訳は分かったが、収支が示されていない。どれくらいの実入りがあるから借金できるという考え方もあるだろう。施設を作ることによってどれくらいの集客を見込んでいるのか、500万人のうち8割が箱根に行っている通過人口の少しでもセンターに来てもらうようにすればよい。70億円かけるのか90億円かけるのかという議論ではなく、ランニングコストや、収支を出して考えるべきである。新居氏の案のように小ホール造らなければ、ランニングコストは減ることになるので、20~30年後を見据えて運営費を試算するべきである。

全体の小田原の活性化の中で、この事業がどういう位置付けであるのか伺いたい。

【市長】

機能の点から言えば、この間の最大の議論が小ホールをどうするのかということであった。小ホールを利用している方にとって期待は大きいものであり、こういったスペックで整備するかという事が焦点であった。この点から小ホールを機能をはずすということとは出来ないということであった。事業提案も大・小ホールはマストということで行ってきた。固定席やロールバック等中身は色々だが、お金の問題や維持管理の問題含めて検討し、それらを見極めたうえで今後も整備する方針であることに変わりはない。

大ホールの席数に関しても、1,100席で少ないという意見や、減らしても良いという意見もあり、両極端である。そういった中で、我々としては、市内施設の状況や、民間施設の利用状況、使い得る財政の規模などを含めて見極める。お金を絞ってもしっかりとした機能を持たせるようにする事は、これからの議論に非常に重要な観点である。

財政についてもご指摘があったが、収益的なものは非常に重要な着眼であり、我々もそういった観点から、これまで民間事業者にPFIなども含めた事業提案に向けた意見募集を行い、事業の可能性を模索してきた。今後も、全ての機能を整える事が難しい状況の中で、こういった事が出来るのか、また、ランニングコストも含めた観点の中で、長いスパンでの投資と回収をどう考えるのかといった観点も組み立てをして、皆さんに内容を示して行きたい。

【市民6】

小田原に住んで60年経つ。市民会館の老朽化は先ほどの議論の通りだが、逆に言うと早く建ててくれたおかげで、ここまで小田原の文化が盛り上がってきたのだと思う。加藤市政になりここまで何年間も議論されてきたが、待ち望んでいる者にとっては、また1年、また1年と延びて行く。文化あっての小田原であり、市民会館でたくさん的小

学生の歌声を響かせている。文化があれば他は要らないとは言わないが、小田原の文化の中心を据えてほしい。

【市長】

思いは一緒である。他の事例に比べて相当程度丁寧にやってきたつもりである。その事が建設費の高騰と重なってしまったことは、残念であるが、出来るだけ早く完成に向けて進めたい。市民会館は満身創痍であり、いつ何が起きてもおかしくない状況の中で、出来るだけ早く役目を終わらせたいというのが、我々の思いである。

【市民7】

これだけ先のことを予測して決断したということだが、なぜ1年前にこの決断が無かったのか。市長はこれまでの説明会に来ていない。私は、昨年こういった場で設計者に73億円で本当に出来るのかといたら、設計者は自信を持って出来ると言った。それで入札が不調になった。補助金も今後出ないであろうとも言った。本当に厳しいと思う。種をまいて花が咲く時期があるように、タイミングの見極めが大事である。なぜ1年前にこういった見込みのもと英断が出来なかったのか、市長が責任を取るということはそのようなことである。選挙が無投票で終わり、信託を得たというが、市民の意見をちゃんと聞いていれば、この予測であれば1年前に出来ただろう。五十数億要求して半分に減らされ、補助金は昨年度であれば23億円出していた。建てるのであれば、こういったホールをどのくらいの予算で建てるのか。

【市長】

昨年11月の説明会以来、事業提案で可能性を探るということを決め、その後数回にわたって複数事業者にヒアリングをし、その後諸団体や商工関係の意見を伺ってきた。こういったプロセスはどうしても必要であった。私たちの主観と持ち得た情報の中でこれなら出来るであろうということと言えたが、裏付けをとる作業がどうしても必要であった。実施設計案や分離案、その他の提案がいくつかあったが、それらの中で、色々な観点から整合性の取れたものを決めていくには、その場で私たちの主観で決断をすることは出来ないで、時間を頂いた。

【市民8】

小田原市はこれまで芸術文化創造センターを造るということで進めてきた。昨年の7月入札が不調に終わり、整備は止まったが、仮にその時点で入札が成立していれば、73億円以内で事業を進めていたはずである。また、この3月までは、事業提案で出来ないかということで検討を進めてきた。事業者から小田原市の意向に見合った提案がなされていたならば、要求水準書を作り、事業者を公募することで進めていたはずである。

それがうまくいなくて、財政を問題に出して、事業を先送りしている。大スタジオの機能が良いため、小ホールは建設しなくて良いと考えるが、そういったことはないがしるに、事業を先送りしているように見える。問題がある。

【市長】

財政の問題は昨年度の不調時にもあり、老朽化する公共施設の建て替え問題などを平行して議論してきた。そういった問題がある中で、この事業は議会にもご承認を頂いて、73億円という数字を確保して進めてきた。その後様々な再検討のプロセスを検討する中で、仕様のあり方、必要な機能、事業費のあり方を見極める一方で、難しい財政状況にも向き合って精査する必要があるということで、平行して企画部、総務部などと、後期基本計画を組み立てていく必要性の中で行ってきた。

再検討をするプロセスに時間がかかっているため、時期的には先送りとなるが、課題を目の前から遠ざけようとしているのではなく、適正なあり方を見極めて着手していく気持ちがあるということをご理解いただきたい。秋頃までには時間を切って、他の数百の事業の予算組みの中で、この事業にどれくらいの予算がかけられるかを見極めをすることになる。

【市民9】

小ホールと大ホールの整備にこだわっているが、本日も市民意見の中にも小ホールが必要だという意見はそれほど多くないと感じる。富山県黒部市のコラーレに見られるような大ホールの小ホール的な活用や、大スタジオが非常に優れた機能を持っていることで、それほど小ホールにこだわらなくても良いのではないか。

【市長】

小ホールについては、大ホールが小ホールをかねるという考えもあるが、小ホールは大ホールとともに7割程度の稼働率であり、大ホールを大ホールとして利用したい人とバッティングし、双方の稼働に支障がある。大ホールと小ホールを別々に整備することは、市民の文化活動促進にとって必須である判断である。小ホールが必要という意見が少ないとは思っていない。これまでの議論の中で必要となっているものであり、今後もしっかりと整備をしたい。整備について、どういった空間で、どういった機能を持たせるかについては、議論の余地があり、しっかり見極めをしたい。黒部のコラーレについては、一度現地を見に行く。

【市民10】

芸術文化創造センターを考える会で富山県黒部市に視察に行き、大ホールが十分小ホールとして活用できることを確認した。市にも昨年11月から見に行ってもらおうようお

願いしてきたが、実現されなかった。一市民として小ホールは是非必要で、何とかして整備できないかと考えており、小ホール分離案で本当に大丈夫かと心配であった。しかし、十分に使えることを現地で確認してきた。300人程度の観客で小学生がダンスの大会をやっており、問題なく利用できていて、楽しそうであった。

現在の市民会館の小ホールでは、講演向きだと思えて、それが稼働率70%ということであれば、管理の方で十分対応できると感じた。大スタジオは、現設計では300人観客を収容でき、なおかつ展示をする方のたくさんの意見で、十分な展示機能も確保できた。気持ちをあわせれば、管理運営でまかなえる問題であることを黒部で見てきた。是非実際に見てほしい。

建設した後の維持管理が大変であり、運営費も5億5千万円のところが、小ホールが無ければ3億円で済むという話もある。今回商業者は排除されているように思うが、そういった方にも参加してもらって良い小田原になるようにしてほしい。

財政的なことは大変だと思うが、是非がんばっていただきたい。昨年度12月の説明会の際に新居氏より消費税の値上げや物価の上昇は、オリンピック後より徐々に人件費が下がり、工事費は落ち着くまでに4～5年かかるという資料をもらった。そういった建設業界の実際のところを確認していただかないと、平成31年度までというのもリスクがある。早く実現を望む声もあるが、この流れでは10年近く価格は落ち着かない。

また、この件に関して2,700名の署名を集めている。市民会館は老朽化が激しく、早くみんなでいい音楽を聴き、市民でいろいろなことを行いたいので、文化部だけでなく横断的に、プロジェクトチームを作っていただいて、商業者も入れて市民意見も取り入れて、議員とも意見を交わし、是非早く作ってほしい。

【市民11】

市民会館を出来るだけ早く作り直さなければならないという現状を踏まえて話しをする。財政というのは非常に流動的である。熊本の震災に対して国は8,700億円という特別会計を創設した。そういった状況の中で小田原が財政状況を鑑みすることは非常に重要なことである。73億円の事業費があり、そのうちの交付金23億円について非常に流動的であるという話であったが、確かに消費税の増税もある中で非常に厳しい状況にあるだろう。73億円という議論ではなく、身の丈にあったものを出来るだけ早く作るにはどうしたらよいか、ということを考える時期である。秋に方向性が定まる小田原の財政の中でどういう位置付けで芸術文化創造センターがどうできるのかということを考えるべきなのではないか。

【副市長】

小田原市の総合計画を全庁的な作業で進めており、子育て支援から高齢介護、環境、教育に至る六百数十の様々な事業がこれから上がってくる。これから3ヶ月かけて行う

整理の中で、熊本の地震を受けて防災の強化が必要であったりという事が出てきたりする。それぞれのバランスがあり、一般財源や借金のボリュームを見極めるのもう少しお待ち下さい、というのが本日の主旨であり、ご理解をいただきたいところ。9月に目途が立つので、その際にまたご説明させていただく。

【市民12】

資料1のP-2の中で、B社は予算内の整備のほかは民間で整備するとあり、A社は管理も含めて全部とあるがこれは何か。これと、資料2のP-2と、P-3、4は分かりやすくまとめられないか。民間からお金を出してもらうなら、その会社がどうにかなった場合を想定するべきだ。

【副課長】

B社は、市の73億円の予算があり、それで整備を進めるが、整備できない部分について民間活力を使って整備しようというものである。市の負担をなるべく少なくしようという提案である。

A社は、設計、施工、管理運営も含めて民間から意見をもらい、市はお金を出す、その中で、事業者から色々なアイデアをもらい、市の負担を減らしていこうという意見である。

資料1のP-2の整備に向けた自由な意見を聞いたサウンディング型市場調査と、資料2のP-3、4の、管理を市で行う前提で、設計と施工について聞いた事業提案に向けた意見募集は違う調査であり、一緒には出来ない。

【市民13】

この現状は昨年の入札不調が招いたものと思うが、新居氏の設計が出来るまでには、多くの専門家や選ばれた市民が数年に渡って関わっている。現在はこれを手のひらを返したように白紙に戻し、ゼネコンに話を聞いている。誠意が無い。新居氏より大ホールを小ホール化するホールインホールという考えのもと、経費面についても問題なく出来るという事が市長にも示されていると思う。これから富山県黒部市を見に行くということだが、もっと早く見に行き判断をするべきであった。いいホールを造りたいという気持ちを持っている市民を軽視しているのではないか。城下町ホールの問題から数年にわたって議論している中で、市長は当選しているので、市民の思いを大事にしながら、新居氏の設計を大事にした小ホール分離案で早めに市民が来たいと思う良いホールを造ってほしい。

【市民14】

新居氏のこれまでの設計をインターネットで調べてみた。最近東京の国立競技場で端

を発し、「どや建築」という言葉が出てきている。ザハ氏の設計は人の目を引くが、非常に難しい建築のために、お金が余分にかかるということで取りやめになった。秋田県由利本荘市のホールや岩手県大船渡市のホールなどは賞をもらってはいるが、非常に奇抜で、余分にお金がかかっているのではないか。こういった建築はデザイン重視のためにそこにお金がかかり、他のところで機能を落とさざるを得ないという意見が書いてある本を読んだ。図書館と一緒にあった大船渡のホールは震災時に立地のおかげで津波にはあわなかったが、雨漏りにより図書館の貴重な資料が水にぬれたようである。このようなことから「どや建築」的な事があるかもしれないという心配がある。余分にお金がかかるようなことはするべきではない。

【市民15】

9月で方針が具体的に分かるとよい。73億円で決まった際の議会の決定や、専門委員のご意見がどのようなものであったか知りたい。

市の内部には、建設の専門家、専門業者もいると思う。73億円で大丈夫なのかということで住民監査請求を出したが、思ったとおり入札不調となった。今回の判断の専門的な見地はどのようなものであったのか。

【副課長】

議会では、事業を進めるうえで議決を経て予算を決める。昨年度当初予算で73億円の建設費を議決して、入札の不調後、事業がストップすることになり、補正予算で事業費をゼロにしたことについて議決を得た。

専門家の意見は多々あったが、整備推進委員会は非公開で行っており、各委員の発言内容については、ここで申し上げる事が出来ない。

【市民16】

市民ワーキングに参加してきた。若い人は県西を行き来して活動を行っているのもうちょっと政治力を使って大きな視点に立ち、国や県の力を使って県西のリーダーとしての立場でこういった状況の打開を図れないか。

【市長】

県民ホールとその市のホールとが混在する県庁所在地では、ホールを統合に当たり県と市が共同して整備事業を進める事例はある。県とは国の交付金の獲得に向けた調整であるとか、県西の中での小田原市の位置付けの調整など、しっかりと行う。足柄平野の中心での芸術文化創造の拠点としての思いは共有していく。

【市民17】

建物を建てれば壊す日が来る。壊すまでには建設費の4倍近いお金がかかると聞いた事があるが、子どもの将来のためにも、ランニングコストや取り壊しの費用が命取りとならないよう願っている。子どもは病気がちで、市立病院によく行くので、市立病院に予算を多く振り分けてほしい。

【市長】

1点目は当然考慮すべきことで、最小限に抑える努力をする。市立病院は医療を巡る諸状況の進歩に建物が追いつかず、相当差がある。機能面には、医療従事者からも、患者からも意見があるところである。センターは総合計画の中でどうするのか位置付けも行うが、どちらかということではなく、医療のことは最優先なので、これと平行して進める。

【市民18】

市の職員は大変苦勞があると思うが、比較対象が出来ない1社入札はおかしい。今後はこういった事が無い様をお願いしたい。また、市は公の積算で行うが、民間は市場の原理で行うので価格に乖離がある。市の職員は、それを踏まえて設計者の積算を参考にコストコントロールしていかないと、とんでもない金額になる事がある。

センターが負の遺産となって将来残らないように、過剰な建物、設備は避けて、現状の社会情勢に合わせて、あらゆる角度から可能性を追求してやっていただきたい。

【市民19】

川の東側の方は、この問題に対して関心が低い。この説明会は、市長選の後に設定されている。決定を先送りした曖昧戦略が功を奏しているのではないか。選挙前に行っていたら、批判的な人が多く、それを受けて選挙戦になることもあったのではないか。選挙戦が出来なかったことは、市民の側の敗北である。

【市長】

非常にうがった見方である。一日も早く結論を出して、皆様の気持ちにこたえる必要があると思ってきた中で、作業日程上選挙に関係なく出来るだけ早く進めてきたが、本日に至ってしまったことは申し訳ない。

閉会后

【市民20】

城下町として高度地区を設定しておいて、お城の前に大きな建築物を作るのは自殺行為だ。

【市民21】

現行予算の中でスペックを落とさずに行うのにどうして平成31年度まで延長する必要があるのか。